



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

国際ロータリー第2800地区 1959年6月9日創立

鶴岡ロータリークラブ

平成23年9月13日(火)

第2556回 例会

(本年度第9回)

例会場 東京第一ホテル鶴岡
(鶴岡市錦町 2-10)

例会日 毎週火曜日
(12:30~13:30)

2011-2012年度 国際ロータリー会長…カルヤン・バネルジー

クラブホームページアドレス◎<http://www.tsuruokarc.org/>

メールアドレス◎tsuruoka08@rid2800.jp

本日(9/20)のメインプログラム

ゲストスピーチ
GSE派遣メンバー 富田 信一君

次週(9/27)のメインプログラム

会員スピーチ
「新世代について」佐藤 孝子 さん

会長挨拶

青柳 孝治

ニューブランズウィック・ロータリークラブからメールが届きました。内容は以下になります。『3月に起こった津波、そして先日の台風、大雨による悲劇の連続にお悔やみを申し上げます。』

ニューブランズウィック・ロータリークラブがお送りした手紙(2011年4月27日付)が、受理されなかった事をうかがい、残念に思いました。

我々は鶴岡ロータリークラブとの協調を維持する事を強く望んでいます。鶴岡ロータリークラブからのご返事をいただき、双方で可能な事業展開の相談ができます事を、楽しみにしております。』

また昨年12月28日付の、鶴岡ロータリークラブからの手紙の返信も届いております。『東日本大震災のお悔やみを申し上げます。お約束した募金となる基金ですが、これに加え被災地と被災者を支援する為にニューブランズウィック・ロータリークラブの会員により、1800ドルの寄付を致しております。』

これまでニューブランズウィック市と鶴岡のロータリークラブで、長期間にわたる価値のある交際を続けてきましたが、この度、クラブ同士の姉妹提携を解消される事についてのご連絡を受け、驚き唖然といたしました。

姉妹提携の解消につきましては、どうぞご再考ください。姉妹都市関係の一部として私達の結びつきを継続する新たな事業について、ご提案を頂きたく存じます。ニューブランズウィック・ロータリークラブでは、特に友好親善と友情を育てる生徒の交流事業を予定し

ております。

今後とも、鶴岡ロータリークラブとの姉妹クラブとしての関係を期待しております。』

このようなメールが届いておりますので、後で相談したいと思います。

幹事報告

木村 節

○ガバナー事務所

・米山奨学会への普通寄付金の申告用領収書
申請期限：10月末日

○鶴岡市民憲章推進協議会

・鶴岡市民憲章推進協議会視察研修の実施について
日時：10月6日(木) 8:15~5:30
締切：9月16日

米山奨学会 カウンセラー研修会

藤川 享胤君



前準備が間に合わず記憶を頼りに話させていただきますので、これから話す事は確かな情報ではないかもしれませんがご了承ください。

8月8日に、米山奨学会セミナーが行われました。総勢百名以上

の方が参加されました。

正直に言って残念なセミナーでした。なぜかという、皆さんおぼろげな話しか出来ないのです。

現在米山奨学会は800名の方をご支援しておりますが、このご支援の為に14億8千万円近いお金が必要となります。これは、皆様からのご寄付によりま

出席報告

会員数	38名
出席	27名
出席率	72.95%
前々回確定出席率	86.84%

■RI会長 カルヤン・バネルジー ■地区ガバナー 細谷 伸夫

■会長/青柳孝治 ■副会長/嶺岸禮三 ■幹事/木村 節 ■会長エレクト/阿部純次
■会報委員会/阿蘇司朗・阿部純次・嶺岸禮三

事務局：鶴岡市馬場町11-63 鶴岡産業会館3階 TEL(0235)28-3375 FAX(0235)28-3376

このクラブでの寄付金の目標を2万円として掲げさせていただきました。なぜ、2万円なのかというと、ジンさんという素晴らしい学生を迎えたからです。鶴岡西ロータリークラブでスポンサーをしているゾウさんという方は、この12月に帰国なさいますが、偶然にもこのゾウさんとジンさんは中国で同じ大学でした。お二人とも素晴らしく、この人たちのような方をご支援させて頂くには、やはりこのクラブが一生懸命がんばって、募金をさせていただこうという思いで、私が皆様にお一人ずつ頭を下げに参りますので、どうぞよろしくお願い致します。

セミナーの話に戻りますと、なぜおかしいかというと、14億8千万円で800人の人をご支援するのですが、昨年度で1億ちょっと予定より少なく、現在、基金を取り崩しております。

なぜお金が集まらないかと申しますと、会員の減少もあります。一番大きいのは米山の学生の半分が中国の学生という事です。この中国からの学生に対して、反発する方が非常に多いという事です。あれだけ排日感情をあらわにしている国にして、GNPが世界の第二位になった国の学生に、なぜ我々がこれまで以上に支援をしなければいけないか？…という声が非常に大きいと思います。

しかし、一部の人たちのをのぞき、今の中国においてほとんどの人たちは大変な暮らしをしています。昔は中国からの学生の方達というのは、大変貧乏でありましたが、今は日本に入国する際にある程度のお金の保証がなければビザがおりませんので、昔と比べれば良くなりました。しかし、彼らが勉強をするという環境におくには、まだまだ不十分だと言う事です。

そして我々の役目というのは、この方々が母国に帰ってから将来の日中友好の為に力を頂きたいという、いわば投資先行という考え方です。

現実では、日本などで留学した学生は当然、自分の国で習った事と本当の日本の姿が違うということに気付きます。そして、自分たちが今まで教わってきた事がおかしいという事を知るのです。

しかしながら、国に帰ってすぐには行動をおこさせません。一人ひとりに監視がつき、米山奨学会からのアンケートや資料は全てチェックされるというのが、現状です。彼らが将来立ち上がる為には、今後も素晴らしい学生を支援し続ける事が必要です。

特にジンさんは日本を良く勉強し、心根も素晴らしく、ぜひ皆様ともお付き合いをお願いします。

私がスポンサーとなり、彼女からローターアクトにもなって頂きました。若者とも文化の交流を積極的にやって頂いておりますので、その意味を込めて私達は2万円という金額を掲げました。ぜひご協力を頂ければと思います。

最後に、私の世界の話を申し上げたいと思います。

私が一番好きな作家に、五木寛之さんという方がおられます。

その方の言葉で、「人間が絶望のふちに立ったとき、または死を直前に迎えたとき、その人の心を癒すには2つの言葉がある。その一つは「励まし」。もう一つは「慰め」である。」これを仏教の言葉で言うと「慈悲」といいます。

まだ立ち上がる余力があるのに、どうして立ち上がっていいかわからない人に手を差し伸べると、差し伸べられた人もそれにすがります。これを「慈」、励ましなのです。励ます主役は父であります。だから慈の下に父と書いて、慈父という言葉が生まれました。

しかし人生には、もう立ち上がれないという時が必ず来ます。もう駄目だというときに「頑張れ」は、惨い言葉です。その時は、「もう頑張らなくていい、私のそばでそっと休みなさい。」これが「悲」、慰めであります。悲は悲しいのではなく、その人の心を癒す慰めなのです。悲の主役は母であります。だから悲の下に母を書いて、「悲母」という言葉が生まれました。

励ましと慰め。戦後は「さあ頑張れ！」という励ましで来ました。所得倍増論も、バブルも来ました。その結果、今の時代では「悲」の心がいかに大切かを訴えたいのです。相手の心に響く優しさです。

私はロータリーに関しても、その心がとても大切だと思います。

問題は事務総長が表明している、ロータリーの財団を世界一番の財団にしたいという方針です。

その為に、皆さんからお金を集めたいということで、様々な寄付のお願いが上から来ていますが、しっかりと見定めて精査する必要があると感じます。

委員会報告

◆出席委員会

◎ポールハリスフェロー

吉野隆一君

◎年間出席者

16年 加藤恒介君

7年 富田喜美子さん

◎メイクアップされた方

藤川享胤・石田 雄・塚原初男



スマイル 😊

吉野隆一君 やまがたふるさと食品コンクールにおきまして、当社ダブルチーズ(ラ・フランス)がおいしい山形賞を受賞しました。

藤川享胤君 スピーチの準備を怠りました。お詫びしてスマイルいたします。

佐藤孝子さん 昨日のローターアクト例会では早寄さんから卓話、今日は藤川PGから卓話ありがとうございました。東京米山友愛RCにメイクして来ました。